



巻頭言

## 女性化学者奨励賞新設

●  
**相馬芳枝** Yoshie SOUMA

神戸大学 特別顧問, 日本化学会フェロー



昨年は、2011 世界化学年プロジェクトとして女性化学賞 (Distinguished Women in Chemistry/Chemical Engineering) が設立された。これは、世界的に女性化学者の活躍が期待されているので、女性化学者を励ますために設けられたものであろう。Ada Yonath 教授 (2009 年ノーベル化学賞受賞者)、Nicole Moreau 教授 (IUPAC 会長) 等、16 カ国から 23 人の受賞者が選ばれ、筆者も日本化学会のご推薦により、凶らずも受賞の栄に浴した。

さて、日本化学会にも女性化学者奨励賞が新設され、今年から募集が始まる。対象は、40 歳未満 (受賞年の 4 月 1 日現在) の日本化学会に所属する優れた業績をもつ若手女性化学者で、他の賞と同時期に公募、選考し、春季年会で表彰する (2 名以内)。同賞の推薦母体は支部、部会、ディビジョン、男女共同参画推進委員会であり、8 月末日までに推薦書を女性化学者奨励賞選考委員会にお送りいただきたい。受賞者はその年の春季年会で受賞講演を行う。若手女性研究者のロールモデルを顕彰することにより、化学を選ぶ女性が増え、女性会員数が増加することを願っている。

日本化学会には 2002 年に男女共同参画推進委員会が設置され、ポジティブアクションが 2003 年の第 561 回理事会で承認された。ポジティブアクションには、1. 理事会、支部、部会、委員会における女性役員比率が 20% になるように女性の登用に努める、2. 日本化学会が主催する学会、講演会等において女性化学者を含め、ロールモデルとして示すこと、3. 女性化学者に対する奨励賞の創設、の 3 項が記され、9 年目に第 3 項が実現したことになる。

日本の女性研究者の比率は文理合計で 13.6% であり、アメリカ (34.3%)、イギリス (36.7%) 等と比較すると、随分低い。女性が大学へ進学できるようになった年、博士号を取得した年等を比較すると、欧米諸国に比べて約 50 年遅れているような感じである。アメリカ化学会では、優れた女性化学者を顕彰する Garvan-Olin Medal が 1936 年に創設された。

日本でも 2001 年に内閣府に男女共同参画局が設置され、2006 年に制定された第 3 期科学技術基本計画では、理工系で女性研究者を 25% 採用することが記された。これを受けて文科省では、2006 年に画期的な科学技術分野における女性の活躍促進策を始めた。すなわち、環境整備を目的とする女性研究者支援モデル育成事業、女性教員の採用を目的とする女性研究者養成システム改革加速事業及び女子中高生の理系進路選択支援事業等である。種々の試みが功を奏し、女性研究者の数が増加し、日本が活気の漲る国になることを願って止まない。

© 2012 The Chemical Society of Japan